中世からの伝統と秘めた貴重な文書

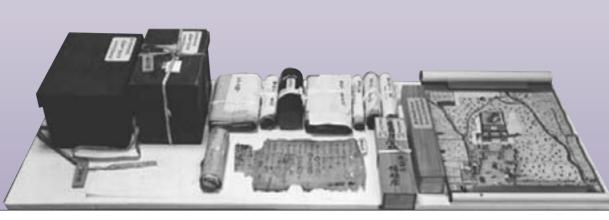
下田の街並みを通り抜ける旧でいます。つややかな緑の木々がいています。つややかな緑の木々がいています。つややかな緑の木々が、朱色の鳥居や清浄な社殿に映えて、集島神社は承安二年(一一七二) 鹿島神社は承安二年(一一七二) 鹿島神社は承安二年(一一七二) 市として栄えられ、下田はその門前したと伝えられ、下田はその門前したと伝えられ、下田はその門前りとして栄えてきたともいわれています。

には貴重な絵図や文書が残されていますが、結鎮座文書もその一つ。結鎮座とは、客座のことをいい、神社の氏子の集団ののことをいい、神社の氏子の集団ののことをいい、神社の氏子の集団ののことです。この集団は、神社で行いる行事やしきたりなどを連れれる行事やしきたりなどを連れる行事やしきたりなどを連れる行事やしきたりなどを連びたい。

最古のものといます。 最古のものといます。 最古のものといます。 最古のものといます。 最古のものといます。 最古のものといます。 最古のものといます。

る貴重な史料となっています。 ら現代にまで書き継がれていると いるのです。結鎮座の行事や組織 についての宮座文書を伝え、村落構 についての宮座文書を伝え、村落構 なかでも座衆帳は、建久七年か

にぎやかに行われています。十月には御神輿が出る秋祭りが大衆が鹿島神社に詣でます。また、人衆が鹿島神社に詣でます。また、



シリーズ・まちの文化財 第七回

約八〇〇年の歴史や伝統がうか

初期からの記録が残されており、

この結鎮座文書には、鎌倉時代

「鹿島神社結鎮座文書」